

大豆の層位別着莢特性と機械収穫適応性

福島県農業試験場 種芸部

平成14年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

普通畑作物－大豆－品種－形態・生育相－収穫・乾燥・調製－作業技術

分類コード 02－05－01052429

2 担当者

二瓶直登・丹治克男

3 要旨

ふくいぶき、スズユタカ、タチナガハの層位別着莢特性を調査し、刈り残しロスから機械収穫適性を検討した。標播では、ふくいぶきとスズユタカの子実は20cmから50cmまでに着生しており、タチナガハは30cm以上に多く着生していた。晩播では、標播に比べ下層への子実割合が高まった。

子葉節からの最下着莢位置は、タチナガハが最も高く、ふくいぶきがスズユタカよりやや低くなった。しかし、ほ場に立毛中の地際からの最下着莢高の比較では、ふくいぶきの倒伏がスズユタカに比べて少ないため、同程度となった。タチナガハの耐倒伏性は強く、地際からの最下着莢高も高かった。

コンバインの刈り取り高さを10cmと設定すると、刈り残し(10cm未満)莢数割合は、タチナガハは0%であるが、ふくいぶきとスズユタカは12～13%となった。しかし、精子実重割合では、10cm未満に着生する子実の整粒歩合が低いため、両品種とも6%であった。

以上より、層位別着莢特性からみた機械収穫適性はタチナガハが最も高く、ふくいぶきとスズユタカは同程度であった。

4 その他の資料等

なし